

別海町の農業・農村振興にかかる農業者アンケート集計結果

1. アンケート調査の目的

別海町では、将来にわたって持続的で多様な農業経営と魅力ある農村環境の確立に向け、平成28年7月に「別海町農業・農村振興計画」を策定し、令和4年3月に中間年の見直しを経て、本町農業及び農村環境の現状、国や北海道の情勢変化等を踏まえて、このたび新たな「別海町農業・農村振興計画」を策定することとしました。

つきましては、本町の農業・農村に関する町民の率直な声を聞き、現状の課題や将来展望を把握することを目的とし、農業経営者をはじめ町内全世帯を対象としてアンケート調査を実施しました。

(注)アンケート調査は、農業者と消費者に分けて実施しており、本結果は農業者アンケートのみを対象としている。

2. 農業者用アンケート実施期間

令和7年11月1日 ～ 12月31日

3. 農業者用アンケートの実施方法

町内全農家(625戸)を対象とし、町内農業協同組合を通じた直接配布及び組合員外農家への郵送により実施。

4. 農業者用アンケート回答者の構成

配布戸数	回収部数	回収率
625	328	52%

5. 集計結果の概要

○家族構成と家族労働力について

(1) 経営主の年齢

年齢	戸数	割合
20歳代	1	(0.3%)
30歳代	48	(14.6%)
40歳代	110	(33.5%)
50歳代	92	(28.0%)
60歳代	61	(18.6%)
70歳以上	10	(3.0%)
無回答	6	-
総計	328	-

(2) 家族人数

人数	戸数	割合
1人	10	(3.0%)
2人	46	(14.0%)
3人	59	(18.0%)
4人	63	(19.2%)
5人	49	(14.9%)
6人	31	(9.5%)
7人以上	53	(16.2%)
無回答	17	-
総計	328	-

(3)うち農業従事人数

人 数	戸数	割合
1 人	34	(10.4%)
2 人	104	(31.7%)
3 人	86	(26.2%)
4 人	54	(16.5%)
5人以上	13	(4.0%)
無回答	37	-
総 計	328	-

(4)後継者の有無

後 継 者	戸数	割合
あ り	74	(22.6%)
な し	142	(43.3%)
未 定	104	(31.7%)
無 回 答	8	-
総 計	328	-

○今までの取組と今後の取組について

(1)農業生産・経営

項 目	R3～R7の取組評価				今後の取組方向			
	前進	不変	後退	無回答	強化	現状	縮小	無回答
コントラクター、TMR等 地域支援システムの増強	94 (29%)	194 (59%)	17 (5%)	23 -	156 (48%)	143 (44%)	7 (2%)	22 -
地域ブランドの創出	61 (19%)	235 (72%)	6 (2%)	26 -	180 (55%)	119 (36%)	3 (1%)	26 -
乳業会社との提携など 各種取組の推進	40 (12%)	253 (77%)	9 (3%)	26 -	154 (47%)	143 (44%)	3 (1%)	28 -
草地更新など生産基盤整備の 円滑な実施	86 (26%)	203 (62%)	14 (4%)	25 -	172 (52%)	131 (40%)	3 (1%)	22 -
研修牧場の充実など 新規参入者の育成と確保	23 (7%)	172 (52%)	108 (33%)	25 -	195 (59%)	106 (32%)	5 (2%)	22 -
家族協定による女性や後継者の 位置づけの明確化	43 (13%)	245 (75%)	8 (2%)	32 -	132 (40%)	167 (51%)	2 (1%)	27 -
肉牛の生産振興	61 (19%)	230 (70%)	11 (3%)	26 -	125 (38%)	169 (52%)	8 (2%)	26 -
農協組織の体制・機能強化	51 (16%)	222 (68%)	27 (8%)	28 -	147 (45%)	151 (46%)	5 (2%)	25 -
負債対策	30 (9%)	256 (78%)	13 (4%)	29 -	134 (41%)	167 (51%)	2 (1%)	25 -

(2)農業環境・資源保全

項 目	R3～R7の取組評価				今後の取組方向			
	前進	不変	後退	無回答	強化	現状	縮小	無回答
ふん尿処理施設の整備	72 (22%)	218 (66%)	13 (4%)	25 -	148 (45%)	157 (48%)	3 (1%)	20 -
需給・流通調整システムの整備	34 (10%)	255 (78%)	11 (3%)	28 -	133 (41%)	168 (51%)	3 (1%)	24 -
防疫対策の強化	61 (19%)	233 (71%)	4 (1%)	30 -	117 (36%)	184 (56%)	1 (0%)	26 -
環境と調和のとれた酪農の推進	42 (13%)	245 (75%)	12 (4%)	29 -	137 (42%)	162 (49%)	5 (2%)	24 -
飼料自給型酪農の推進	31 (9%)	243 (74%)	24 (7%)	30 -	117 (36%)	182 (55%)	5 (2%)	24 -
環境保全施設の整備	33 (10%)	246 (75%)	18 (5%)	31 -	145 (44%)	155 (47%)	3 (1%)	25 -
排水処理施設の普及	48 (15%)	243 (74%)	7 (2%)	30 -	133 (41%)	171 (52%)	3 (1%)	21 -
地域資源の高度利用の推進	42 (13%)	239 (73%)	16 (5%)	31 -	127 (39%)	165 (50%)	11 (3%)	25 -
野生鳥獣害対策の強化	32 (10%)	239 (73%)	32 (10%)	25 -	227 (69%)	83 (25%)	0 (0%)	18 -

(3)農村づくり(生活環境、景観形成)、消費者や他産業との連携や交流

項目	R3～R7の取組評価				今後の取組方向			
	前進	不変	後退	無回答	強化	現状	縮小	無回答
農場の整備	40 (12%)	251 (77%)	12 (4%)	25 -	133 (41%)	167 (51%)	2 (1%)	26 -
農村生活の環境整備	44 (13%)	253 (77%)	5 (2%)	26 -	109 (33%)	191 (58%)	2 (1%)	26 -
都市・農村交流の促進	33 (10%)	251 (77%)	16 (5%)	28 -	104 (32%)	192 (59%)	5 (2%)	27 -
消費者への情報発信や結びつきの強化	48 (15%)	241 (73%)	13 (4%)	26 -	161 (49%)	142 (43%)	0 (0%)	25 -
農畜産物の加工・販売の推進	30 (9%)	259 (79%)	10 (3%)	29 -	128 (39%)	167 (51%)	7 (2%)	26 -
農村女性の起業化の推進	27 (8%)	261 (80%)	11 (3%)	29 -	116 (35%)	180 (55%)	6 (2%)	26 -
酪農・畜産物の地産地消の推進	40 (12%)	257 (78%)	4 (1%)	27 -	149 (45%)	149 (45%)	6 (2%)	24 -
他産業との連携と相互理解の促進	27 (8%)	257 (78%)	14 (4%)	30 -	165 (50%)	131 (40%)	4 (1%)	28 -

○別海町の農業・農村の問題点及び今後の方向性について

(1)都市農村交流の推進に向けて、ご自身のお考えに近いものは。

都市農村交流の取組	必 要 度			回答数 合計	無回答
	非常に必要	どちらかといえば必要	不要		
直接ふれあえる「場」づくり	71 (22%)	227 (69%)	24 (7%)	322	6
リーダー育成など「人」づくり	99 (30%)	195 (59%)	22 (7%)	316	12
地元の産物を使った「食」づくり	148 (45%)	163 (50%)	8 (2%)	319	9
町の魅力の再評価とPR活動の展開	149 (45%)	161 (49%)	8 (2%)	318	10
宿泊施設や娯楽施設の充実	129 (39%)	163 (50%)	26 (8%)	318	10
グリーンツーリズム関連施設の整備	79 (24%)	214 (65%)	24 (7%)	317	11
地域農業への理解を高める取組推進	100 (30%)	199 (61%)	16 (5%)	315	13
自然環境の保全や農村景観づくり	121 (37%)	185 (56%)	12 (4%)	318	10
農山漁村の可能性を創出	118 (36%)	189 (58%)	12 (4%)	319	9
歴史的・文化的な景観や施設の保全	90 (27%)	204 (62%)	26 (8%)	320	8
情報化社会への対応の強化	147 (45%)	167 (51%)	4 (1%)	318	10
その他				3	

(2) 魅力ある農村づくりに向けた別海町の方向性について、ご自身のお考えに近いものは。

項 目	回答数	割合
地域資源を活用し経済が活性化している農村	177	20%
快適で安心な暮らしが実現されている農村	176	20%
地域住民のみならず都市住民にも魅力ある農村	88	10%
農業生産基盤を維持し次世代へ安心して継承できる農村	150	17%
都市との交流や情報発信が活発で開放的な農村	23	3%
地域人口の減少を抑制し集落機能の維持や再生を図る農村	195	22%
住民が地域に誇りを持ち生き生きと暮らしていける農村	54	6%
自然との共生や、環境との調和を目指した農村	22	2%
総 計	885	-

(3) ご自身の農場・農場周辺の環境や景観について。

項 目	整備			整備済みの割合
	している	していない	無回答	
農場・住宅周辺の植林	130	178	20	40%
農場周辺の雑草	229	83	16	70%
農場の景観への配慮	203	102	23	62%
不要な農業機械や車両	257	54	17	78%
農場の案内看板	220	88	20	67%
不要な廃屋やサイロ	204	100	24	62%
畜舎周辺	223	89	16	68%
老朽化した農場内の施設	176	121	31	54%

(4)別海町の生産環境について、ご自身のお考えに近いものは。

項 目	回答数	割合
トイレの水洗化など生活排水の整備	91	11%
公共水域の水質改善	58	7%
家畜ふん尿臭の解消	82	10%
自然・水辺環境の保全	83	10%
潤いのある景観づくり	51	6%
環境等に配慮した施設更新・保全管理	55	6%
農業体験施設などの充実	57	7%
地域の伝統文化の伝承	24	3%
歴史的建造物などの保存	22	3%
集会・運動施設などの充実	47	5%
医療提供体制サービス等の充実	168	19%
ITを活用するための環境整備	125	14%
総 計	863	-

(5)生産現場の環境における問題点(衛生管理の徹底)について、ご自身のお考えに近いものは。

項 目	回答数	割合
消毒槽の設置と管理	64	7%
畜舎内の換気	138	16%
畜舎内の整理整頓	71	8%
畜舎内の衛生管理	85	10%
牛体の衛生管理	54	6%
ミルク配管の衛生管理	43	5%
飲水機器の衛生管理	26	3%
飼槽構造（コーティング等）	56	6%
畜舎等洗浄排水の処理	50	6%
家畜ふん尿の処理	96	11%
害虫の発生	125	14%
悪臭の発生	30	3%
病気の発生	43	5%
総 計	881	-

(6) 環境負荷軽減のため、現在取り組んでいる(または今後取組を検討している)農業生産活動に係るご自身の状況について。

項 目	取組中	取組検討	取組未実施	取組中の割合
処理施設の適正管理による流出事故防止	180	33	115	55%
草地面積に対して適性な飼養密度での放牧	149	17	162	45%
堆肥の完熟化による草地散布時の環境負荷軽減	133	38	157	41%
排水浄化処理施設の設置による水質汚濁防止	120	33	175	37%
廃プラ等農業資材の適正な管理と廃棄	231	10	87	70%
牧場内における河畔林の植樹	31	52	245	9%
農薬や肥料などの使用減量による環境負荷軽減	144	25	159	44%
未利用バイオマスを有効活用した農業生産活動	30	49	249	9%
環境保全への意識啓発や情報収集	52	43	233	16%

(7) 野生鳥獣による被害について、具体的にどのような被害に困っているか。

項 目	回答数	割合
エゾシカによる牧草の食害	251	34%
エゾシカの脱落角による草地での機械作業への支障	144	20%
カラスによる牛への傷害	195	27%
野犬による牛への傷害	30	4%
野生動物による家畜伝染病の伝播	81	11%
その他	33	4%
総 計	734	-

※その他意見…野生鳥獣によるロールラップの損傷、クマ対策に関すること

(8) 野生鳥獣対策で必要だと思うことについて、ご自身のお考えに近いものは。

項 目	回答数	割合
広域・横断的な鳥獣被害対策	183	24%
捕獲した有害鳥獣の有効活用	92	12%
地域における指導者や猟師の育成・確保	181	24%
計画的な個体数調整	136	18%
牧草地や畜舎への侵入防止策	160	21%
その他	6	1%
総 計	758	-

その他…クマ対策に関すること

○農業経営の将来について

(9) 今後5年間の経営展開方向について、ご自身のお考えに近いものは。

項目	回答数	割合
低コスト経営	207	26%
ゆとりある経営	177	22%
分業型の経営	40	5%
大規模な経営	20	3%
飼料自給型の経営	85	11%
資源循環型の経営	112	14%
多角的な経営	15	2%
付加価値を付けた経営	10	1%
スマート農業経営	50	6%
現状維持	73	9%
総計	789	-

○国の新たな「食料・農業・農村基本計画」について

(10) 国が示した基本計画に対し、別海町が今後最も力を入れ取り組むべき「農業の持続的発展に関する施策」について、ご自身のお考えに近いものは。

①農業の持続的な発展に関する施策

項目	回答数	割合
地域の実情に応じた国産飼料の生産・利用拡大の促進	177	29%
生産コスト低減・生産性向上の促進	113	18%
需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化の推進	56	9%
力強く持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成・確保	111	18%
農地の確保及び適正利用・農業生産基盤の保全整備	67	11%
農業生産活動における環境負荷軽減等の促進	45	7%
国産農畜産物の消費拡大、食育の推進を通じた国民理解の醸成	52	8%
総計	621	-

②農村の振興に関する施策

項目	回答数	割合
多様な人材が関わる機会の創出と人が住み続けるための条件整備	130	51%
多面的機能の発揮の促進のための共同活動の推進	91	35%
付加価値向上に向けた農産物及び事業の創出	36	14%
総計	257	-

6. ご意見

(1) 農業に関する意見

- ・人口減少。後継者不足は、別海町だけでなく他の地域でも起こる将来です。その中で広大な面積の我が町の基幹産業をどう持続させていくのか、というのが課題と認識しています。魅力のある町づくりになる様願います。
- ・防風林から草地への枝の侵入が酷いので対策してほしい。かなり深刻。道路の側溝の雑木も、交通事故を起こしている要因のひとつだと思うので対策してほしい。
- ・別海町の放牧牛乳は乳成分の変動があることをアピールして、季節の味わいをうたって販売を行う。
- ・太陽光パネルはやめてほしい、景観が悪くなるし、動物の住むところが牧草地などに来るため。機械が大型化し、道路の拡張工事をしてほしい、トラクター同士のすれ違い、車の追い越しが危ないところもある。
- ・少子高齢化、人口減少が今後も進むことを想定した持続可能な農業・農村振興が急がれる。生産コスト低減・生産性向上は喫緊の課題だ。
- ・酪農業をしているが、10年前からクラスター事業等を利用して家族経営から雇用が必要な規模の牧場が増え、両親が高齢などの理由から労働力を補う形で外国人研修生を雇い延命している牧場も増えていると感じる。大規模な牧場が離農するとなったとき、農協や近隣酪農家が吸収できずに中国資本に買われてしまうのではないかと危惧している。また、5年、10年後離農が進み酪農家戸数が減少していくことが容易に想像できる。研修牧場が下火になっているため地域おこし協力隊制度を活用した牧場研修制度や第三者継承による牧場継承、在宅離農問題の解消について農協任せでなく、町としても取り組む必要性を感じる。
研修牧場での研修ではなく第三者継承希望農場や個人牧場で地域おこし協力隊制度を利用して研修してもらい双方の希望でうまくいけば就農できるシステムづくりの構想を求める。
また、農地の外国人取得規制を町として進めてほしい。国や道があてにできない昨今自治体レベルでの防衛が必要。利益重視のメガソーラー建設も断固反対である。再生可能エネルギーで日本のエネルギー問題は解決できない。現状の進め方では中国へ寄付し日本人の電気代が高くなっているだけだと思います。
外国人研修生についても町は消極的な姿勢で良いと思う。外国人に対するケアはあくまで雇用者が責任をもって行うべき。町は一次産業が発展する仕組み作りに注力してほしい。水道料金減免はとても助かったし良い政策であった。別海町の酪農家が平等に恩恵を受ける政策にしてほしい。クラスター事業のような一部の牧場だけ利益を受ける補助では経営面で良くない(経営センスがない経営者にはお金のムダ)。
- ・新規就農や酪農及び酪農関連産業への就業を更に増加させる必要がある。今までの対策では不十分であったことが判明しており、新たな視点で状況を捉えることを含め抜本的な対策が必要ではないかと考えます。
- ・私はJAに所属しておりません。資金は全くあてにならず、自己資金のみで経営をしていて、巨額な改修などは無理に等しい現状です。何かをしようとする、少ない資金でできる限りをしていますが、現状は厳しいです。JAはあてにしていますが、少しは個人経営に対しても考えていただきたいですね。

(2) 行政に関する意見

- ・地域通貨(オトモノ)で公共料金(水道光熱費や通院費、給食費等)の支払いをできるようにしてほしい→その方が地域でもっとお金が回る
- ・地域通貨(オトモノ)でベーシックインカム的なことができれば別海に移住・定住してくれる人増加するのではないかと。
- ・若者、若夫婦、子供が減ってゆく地域社会に未来はない。彼らを引き寄せる強力な施策が地域発展のカギと言える。少々大げさなくらいの大盤振る舞いが必要。
- ・若い人が住むための移住給付金や水道光熱費の一部負担など、よその地域より別海町は遅れている。
- ・クマに対する対策、狩猟免許の拡充

(3) 自然・生活環境に関する意見

- ・太陽光発電パネルの乱立をいい加減見直しましょう

- ・近年、大型肉食獣(クマ)による家畜への被害が頻発しています。近くでも近くでも目撃情報が相次ぎ、自分の牧場にも被害が出てくるかもしれません。対策として狩猟免許の取得のための補助、クマ対策スプレーを各家庭に配備する、大型動物用の電気牧柵の整備を別海町にも考えていただきたいです。

(4) 特産品に関する意見

- ・オリジナル牛乳のパッケージは変えたほうが良い。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。